

令和3年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	1473200895	事業の開始年月日	平成16年3月
		指定年月日	平成16年3月
法人名	社会福祉法人まごころ会		
事業所名	グループホーム神田園		
所在地	(〒 241-0012) 横浜市旭区西川島町68-11		
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護	登録定員	名
	<input type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	通い定員	名
		宿泊定員	名
		定員計	18名
		ユニット数	2ユニット
自己評価作成日	令和4年1月29日	評価結果 市町村受理日	令和4年5月18日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

神田園文法を用いてお声がけする事でご利用者さまの意思決定支援と尊厳の保持に努めています。基本的なお困りごとを解消できたら「お手伝い」により持ちつ持たれつ、頼り頼られての関係の構築を図り所属の欲求に応えられるようにしています。また、上位の承認欲求に対して日本漢字検定協会の「漢検」を取り入れ、一人ひとりにあわせた勉強の支援やお手伝いをする事で日々の生活の充足感と他者から認められる・評価されたいという内面の欲求へ対応していましたが、残念ながらコロナ感染対策のため開催を中止しています。オンライン動画研修システムを導入し3年目となりました。2021年もコロナ感染症により外部との交流が一切中止となり、またご家族の面会も原則ご遠慮いただくこととなりました。その補完としてオンライン面会や家族向けに毎月写真を投稿し利用者さまの日ごろの生活の様子を確認できるようにしています。

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	公益社団法人かながわ福祉サービス振興会		
所在地	横浜市中区山下町23番地 日土地山下町ビル9F		
訪問調査日	令和4年4月8日	評価機関 評価決定日	令和4年5月11日

※新型コロナウイルス感染予防の為、事業所訪問をせずにオンライン調査を行っております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

【事業所の概要】
グループホーム神田園は、相鉄本線鶴ヶ峰駅より徒歩10分の住宅地にある。事業所の後背地には桜、梅、桃の木が植えられた緑地もあり、利用者が事業所からでも季節を感じながら花見を楽しめる環境でもある。

【丁寧な職員教育】
法人代表でもある管理者は、採用面接の際に事業所の理念である「神田園大原則」とその行動指針の「神田園文法」の説明に十分な時間を割くようにしている。その上で入職した職員は、管理者が講師となる2日間の新人研修を受講し、1か月間エルダーメンター制により「大原則」や「文法」に則った「介護」の仕方を学んでいる。管理者は、豊富な知識と事業所の目指す介護にふさわしい経験を積むことが、職員にとって利用者へ接する際の自信につながると考えている。全職員が初級から上級までにグループ分けされ、毎年20講座の動画研修を受講している。この講座には、毎回小テストがあり、しっかりと受講していないと合格点に達しない仕組みとなっている。受講の有無、テスト結果は管理者に届くので、職員は真剣に知識の吸収に取り組んでいる。管理者と職員がSNSを使って、職員が現場で感じた疑問点や困難事例をいつでも、速やかに相談や意見交換出来る体制を構築している。職員は、管理者とのやり取りを通じて学びながら、利用者毎に違う、また、同じ利用者でも日々変化する状況に対応する介護を実践している。

【利用者の笑顔が見られるようなレクリエーションの工夫】
ここ2年間、コロナ禍で地域との交流や事業所の行事も実施が難しい状況にある。このような状況下、職員は少しでも利用者の笑顔が見たい、そして職員も笑顔になりたいとの思いから、様々なレクリエーションを企画し、実施している。夏祭りではユニット合同でゲームを行い利用者も職員も全員が一緒になって楽しんだ。また、秋には昼食をお弁当にして職員も一緒に庭で食べた。利用者は、普段とは違う雰囲気を楽しみ、いつもより長めの昼食時間となった。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	グループホーム神田園
ユニット名	あさがお

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3, たまに 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3, あまり増えていない 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3, 職員の1/3くらいが 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3, 家族等の1/3くらいが 4, ほとんどいない

事業所名	グループホーム神田園
ユニット名	ばら

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3, たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3, あまり増えていない 4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3, 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3, 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	エントランスに掲示し常に確認ができるようになっている。神田園の大原則を基にサービスの提供が出来るように努めている。	職員は入職時に理念である「神田園大原則」とその行動指針となる「神田園文法」の意義や意味を管理者が講師を務める研修で学んでいる。また入職後はエルダーメンター制により先輩職員より現場での理念に沿った介護を学んでいる。職員は理念にある「両親・祖父母を安心して入所させられるホームにすること」を目指し、利用者個々に応じた介護を実践している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事参加、マンドリン演奏、紙芝居の方たちに来ていただき交流しているが、今年度もコロナ感染防止のため中止とした。	笠町内会に加入し、町内会の「いっとき避難場所」に指定されている。コロナ禍のため地域行事は全て中止となっているが、「ハマハグ」は継続し、事業所玄関口を雨宿り等に利用してもらっている。また、「こども110番」も毎年小学校より更新の依頼があり、継続している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域との交わりあいを大事にし、表の掲示板に介護相談の案内を出し随時受け付けている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	過去には玄関の洗面台にうがいコップ増設、防犯システム導入、危険物の保管場所に関して意見を反映させた。	今年度は偶数月に書面開催としている。地域包括支援センターには事前に活動報告書を送付し意見を求めているが、新型コロナウイルス関連情報の入手にとどまっている。従来の出席者である町内会長、同副会長、旭区高齢・障害支援課にも報告書は郵送している。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議で事業所の月の行事や出来事をオブザーバーのケアプラ職員に報告し、地域の行事にも参加させて頂いたり地域との関係を大事にしているが今年度も中止している。	市の健康福祉局よりマスクや抗原検査キットの支給を受けている。職員が新型コロナウイルスに感染したので報告を行った。行政からは、「その後の状況を連絡下さい」とのことで、引き続き状況報告を行っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が、身体的拘束等の対象となる具体的な行為を正しく理解するとともに、身体的拘束等の適正化のための指針の整備、定期的な委員会の開催及び従業者への研修を実施し、緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束等をしないケアに取り組んでいる	簡易センサーやウェブカメラの見守りで安全を確保している。	「身体拘束等適正化のための指針」があり、「身体的拘束等適正化対策検討委員会」を3か月に1度、管理者、法人理事、職員にて開催している。現時点では、身体拘束に該当する行為はない。職員は動画研修を受講している。利用者は介護者の都合による介護等のストレスがたまると帰宅願望も強くなることから、押し付ける介護をしないようにしている。	
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	メディパスアカデミー研修にて全介護者が働き方に関係なく受講できるようになっている。	「高齢者虐待について」と「高齢者虐待防止」の動画研修を受講している。また、「身体的拘束等適正化対策検討委員会」でも高齢者虐待を議題として取り上げ、虐待のないことを確認している。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	主に管理者が研修をうけご家族と話をしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者がご家族やご本人に説明を行い理解、納得を得ている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	フロア内にリクエストシートを置き、要望や欲しいものを書いてもらえるようになっている。	「リクエストシート」を用意し意見や要望を聞くようになっているが、今年度はコロナ禍のため事業所訪問の機会が減少しており、特に意見は無かった。面会が出来ない時期にオンライン面会を導入したが、その際にQRコードを登録した家族には利用者の様子をアルバムにしていつでも見られるように対応した。最近では、ワクチン接種を行った家族は玄関先で面会出来るようにしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	リクエストシート、意見箱の設置。管理者は積極的にスタッフとコミュニケーションをし職員の思いや意見、家庭の悩みなどにも耳を傾けている。	職員用にも「リクエストシート」がある。コロナ禍のため、利用者の笑顔が減ってきているとの意見があり、利用者も職員も気分転換を図り思いっきり笑い合えるような企画を立てた。夏祭りの形式を従来と変更しゲームをユニット合同で実施したり、昼食をお弁当形式にして庭で食べたりして利用者はいつもと違うスタイルを満喫した。管理者が日中は事務所にいるので、職員は気楽に話が出来た。また、職員はSNSを利用し、管理者にいつでも相談や悩みを聞いてもらっている。	
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格取得支援制度においてより高度な介護がしたいと思う向上心にたいし支援している。	定期面談は年に1度実施され、目標設定、動画研修の成果等を管理者と職員は話し合っている。資格取得時の本試験受験料の全額補助等の「資格取得支援制度」があり、これを活用し、入職後資格を取得した職員もいる。介護福祉士、介護支援専門員、社会福祉士には資格手当がある。管理者は職員のまごころを込めた介護を目にした時など良い点があった際には給与明細書に管理者の思いを一言書き添えるようにしている。	
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	現場で働くうえで不安なことや心配なことがあったら、すぐに管理者に相談できるような環境になっている。	職員は入職時に2日間の新人研修を受講する。入職後はエルダーメンター制により実地研修を受ける。また、「神田園キャリアパス制度」があり、職員はレベルに応じて初級から上級に分けられ、そのレベルに応じた動画研修を受講している。資格取得の際の試験勉強は管理者が講師となって実施されている。	

14		<p>○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている</p>	<p>地域のグループホーム管理者とは、会合、地域包括支援センターのイベント、地域のイベントで交流・協働している。</p>		
----	--	--	--	--	--

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	いきなり何かをやる、やっていただくではなく初期の信頼関係作りを大切にしながら本人が困っている事等を伝えやすい関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学时、体験入居時、契約の事前説明時にご家族と積極的にお話をしコミュニケーションをはかり、契約後はショートメールで気軽に意見交換ができるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	グループホーム入居ありきの姿勢ではなく、見学・体験入居などで、本サービスの利用が妥当なのか一緒に考えています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食器拭き、エントランス掃除、洗濯物たたみ等能力や健康状態に応じてお手伝いをお願いし、暮らしを共にする同士のコミュニケーションをとっている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	生活の中でご家族のお話しをしたり、写真を一緒に見たり、コロナ禍の面会ではオンライン等で話をしたりしてご本人とご家族の絆を大切にしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族との面会時には居室やベランダでゆっくり話ができるような環境作りに努めていたが、今年度も面会制限中につきタブレットでオンライン面会ができるようになっている。	利用者にとって入居後に馴染みとなっていた「漢字検定」はコロナ禍のため中止となっていたが、オンライン動画の活用等で6月より再開出来るように準備をしている。ハーモニカ演奏や手芸をしたり、有線放送でスポーツ観戦を楽しむなど、趣味や生活習慣を継続している利用者がいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が間に入りトランプやジゲンガ、歌集、麻雀などのレクを行い利用者同士の交流の機会を設けている。今年度も特に外出の機会も少ないのでボール投げや体操など運動系を多めに提供している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居＝関係の終わりとは考えず必要があれば転院先への情報提供はもちろん相談に応じています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	「今日は見たいテレビがあるから居室で食べたい」と希望された方は居室で食べられるようにして、できるだけ希望に応じている。	「大原則」にある「尊厳を大切にすること」は利用者の言葉をしっかりと聞き、その意思表示を大切にすることと職員は学んでいる。最近、利用者の「やりたいことリスト」を作成することにした。現時点では「中華料理が食べたい」といった食に関する希望が多く、出来ることには対応している。そうすることで利用者は職員を信じ、信じることで利用者が職員を対等な立場として認め、職員の言うことを聞いてくれるようになると管理者は職員に教えている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの生活歴やかかった病気、家族構成などが書かれたファイルがありいつでも手に取り確認することができる。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎朝、検温し記録に残し食分量や発言などを記録して全職員が確認できるようになっている。		
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者の意見を尊重しリクエストシートを作成し本人がよりよく暮らせる為に日々話し合いに努めている。	アセスメントは入所時にセンター方式にて行っている。その後、「生活支援計画書」を作成する。これは期間を介護保険更新時までと設定し、利用者にとっては大枠のケアプランとなっている。その背景には、事業所にとっての「介護」は「大原則」で「決め付けの介護」「してあげる介護」を厳禁としており、利用者の様子を日々確認し、日々の変化に対応していくものという考え方があり。職員は、利用者には何か変化があった際に職員間で判断がつかない場合には、いつでもケアマネジャーでもある管理者にSNSで連絡を取り、指示を仰ぎ、その場面で最適なケアを施すようにしている。	

27		<p>○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>日々の様子などくわしく記録し職員間で情報共有している。</p>		
----	--	---	------------------------------------	--	--

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	臨機応変に入居者のニーズに対応し、適した支援ができるよう努力している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	専門医や美容室や商店など地域の情報を提供している。		
30	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回の訪問診療時に利用者と医師が直接話しをし職員が間に入り最近の体調などの報告相談し、専用のノートに記録している。またそれを請求書に転記してご家族も共有している。	内科に関しては、利用者は全員、協力医の月2回の訪問診療を受診している。診療は、ユニット毎に隔週で行っており、内科医は毎週来所している。訪問歯科は週1回来所し、口腔ケアや治療の必要な利用者を診察している。これら以外の外部医療機関の受診は家族対応となっている。非常勤職員の訪問看護師は週1回来所し、健康管理をしている。医療関係の情報は、「訪問診療ノート」等に記載し、職員間で共有している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	最近の体調などを伝え訪問看護師から助言をもらった場合は申し送りノートに記録しいつでも確認できるようになっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者の情報をまとめた用紙に加えスタッフによる口頭での日常注意点などを伝えている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	早い段階からご本人、ご家族、医師、現場のスタッフと話しあい方針を共有し支援に取り組んでいる。	「重要事項説明書」に「重度化した場合の対応指針」が含まれており、契約時に説明の上、同意を得ている。管理者は、看取りには、医療の力が必要であり、介護現場と医療現場とでは必然的にニーズが違うと考えている。介護者のメンタル面も考慮し、医師が終末期と判断し、経口摂取が出来なくなった場合には医療機関への入院を勧め、積極的な看取り対応は行っていない。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	普通救命講習を1年に1度受講していたが今年度も開催が中止となっている。		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	施設内に水消火器をもってきてもらい消防官と一緒に消火訓練をしていたが、今年度も中止となった。	1月の夜勤時間帯に夜勤者のみで夜間想定火災誘導訓練を実施している。利用者は参加せず、手順の確認のみ行っている。利用者が避難後に居室入口にかけるチェーンが壊れたままになっているのが判明し、状況確認には有効であった。利用者一人ずつに避難用リュックサックが用意されていて10日分の食料を含め飲料、タオル、手袋、レインコート等の物資が入っている。これ以外にも米が36日分と、発電機やカセットコンロ等災害備蓄の用意がある。	今年度は夜間想定訓練のみでしたが、不具合が見つかりました。今後は日中時の訓練も合わせて実施することで、新たな気付きがあるかも知れません。避難訓練の充実により、更に安心、安全な事業所となることを期待します。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	神田園の大原則に基づきまごころの気持ちをもって接し、人生の大先輩、尊厳を大切に多くを学ばせて頂くという気持ちで対応しています。	職員は、利用者からの強い訴えへの返事や利用者へ承諾を求める際にも「神田園文法」により拒絶することなく、無理強いすることなく接遇マナーを守り対応している。管理者は仲良くなることと、ため口を使うこととは違うと指導している。個人情報を含む書類は事務所内の施錠出来るキャビネットに保管されている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様が希望を伝えやすいように工夫し傾聴しそれができなかった場合には他の選択肢を提案し自己決定できるように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者さまの体調や能力に配慮しできるだけ希望にそって支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	スタッフが決めるのではなくご本人様に確認し選んでいただけるよう配慮している。		
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用様の食べやすい大きさ、やわらかさにして提供している。配膳もできる方にはやって頂き、誕生日会の食事などはご本人様が食べたいものを聞きメニューに入れている。	三食ともご飯、汁物は事業所で手作りしている。朝食の主菜、副菜は配食業者からのキット食材を職員が調理しているが、昼食、夕食は主菜のみ業者からの調理済み食材を湯煎し、提供している。行事食は職員が利用者の好きそうなものを考え、材料を買い出しし、手作りしている。誕生日のお祝いは、主賓に希望を聞いて用意している。利用者は皿洗い、食器拭き、盛り付けと出来る限りのお手伝いをしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分量を具体的に記録し、十分ではない方には栄養補助食などを提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食前に口腔体操を行い食後には口腔ケアの声掛けを行っている。		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄パターンを把握し一人ひとりにあった声掛けや誘導をしている。	職員は、日々の「ケア記録詳細」から利用者の排泄パターンを把握し、声掛けを行いトイレでの排泄を促している。日中では布パンツの利用者が半数いて夜間でもトイレへの定時誘導により布パンツで終日過ごす利用者もいる。体験入居の際にリハビリパンツだった利用者が、排泄パターンの把握によるトイレ誘導で布パンツに改善した例がある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便状況を確認し下剤が必要な場合は医師の指示のもと単位を変えて対応している。		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	体調不良時、気分が乗らない時などを避けて利用者様の希望やタイミングに合わせて支援している。	原則週2回の入浴としている。入浴を好まない利用者には、時間・場所・人の3要素を変更し対応している。この対応でも無理な場合は、無理強いせずに利用者が「気持ちよく」入浴出来るまで待つことにしている。同性介助にも対応している。季節の柚子湯を楽しんでもらっている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼夜逆転をしないためにも日中レクや計算、漢字プリントなどで頭や体を使っただき夜間しっかり眠れるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬ボード、チェック表にて職員がサインし誤薬、投薬漏れがないか確認しながら行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	誕生日やクリスマス会、レクを行い、楽しみがもてるよう支援している。		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者さまの体調を考慮し外気浴やエアロバイクなどの声掛けを行っている。	コロナ禍のため、外出行事は全て中止しているが、近くの廃校になった小学校に車で花見に出掛けた。散歩に関しては、気分転換、下肢筋力維持と利用者によって目的も違うので、利用者全員で散歩に行くことはしていない。気分転換を図りたい利用者にはベランダに出て外気浴をしてもらい、下肢筋力維持であれば1階から2階におやつを取りに行ってもらったり、エアロバイクを漕いでもらい個々のニーズに合わせた対応を行っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を持参されている方は事務所の金庫にてお預かりしてしっかりこちらで預かっていることを説明している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があった場合は電話して頂いたり、年賀状のやりとりなどもできるように支援している。		
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	冬は加湿したり、温湿度を管理し、季節ごとにフロアに飾りをつけて季節感を楽しんでもいただけるようにしている。	リビングは利用者それぞれの居場所が確保出来るように広めに作られており、ソファと応接セットが配置されている。広いことでいくつかのレクリエーションを同時に行うことが可能で、利用者は自分の好きなものを選択出来るようになっている。リビングの壁面には季節感を醸し出す利用者の作品が掲示されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合った利用者様同士でお話しできるように食席のレイアウトを適宜変え工夫している。		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使っていた物や写真を配置しリラックスできるように配慮している。	居室での備え付けは、エアコン、押し入れ、換気扇となっている。利用者や家族には入居時に自宅での自室の写真を持ってくることをお願いしており、自室と同じようなレイアウトの居室にするようにしている。利用者は、写真、ドライフラワー、自作の作品等で部屋を飾り過ごしやすい空間を作っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室ドアには名前を貼り、トイレには使用しているのか利用者さまが確認できるよう札を付け間違えて明けてしまうトラブルを防いでいる。		

目 標 達 成 計 画

事業所名

グループホーム 神田園

作成日

令和4年5月11日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	16	避難誘導時に使用する居室のチェンが壊れたままになっていた。又実際に身体を使った訓練が不足している	避難訓練の充実。	・チェンの修繕 ・ハットや履きまき降ろしてイラッ子か移動する練習を行う。	12ヶ月
2					
3					
4					
5					

注) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。
 注) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。